

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	上野 幸彦		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 5		
講義室	2301	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－F〔探究力・課題解決力〕問いを設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 5－J〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 D P 6－K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（15%） F1 探究と論拠（10%） F2 課題解決（10%） J1 継続的学修基盤（10%） J2 創造的思考（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%） L1 チームワーク（15%） M1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3発展期～4定着期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基盤となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、個人研究を卒業論文として執筆し、完成させるまでの総合的なプロセスを指導します。 授業形態は演習形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（ラ		

	イブ配信型)を取り入れます。 ■キーワード 研究成果、論文の完成	
授業の趣旨	■副題 卒業論文の完成を目指して ■授業の目的 卒業論文を完成させる最後のゼミスターなので、これまで積み重ねてきた研究成果について発表し、メンバーによる批判やチェックを受けることによって、行き届いていなかった点について反省しながら、論文の完成を目指すことが目的です。 ■授業のポイント 研究の最終段階であり、またその成果を実際に論文としてまとめる最後のステージです。他の研究発表や論文に接することにより、啓発されたり、刺激を受ける。相互に批判的な検討を重ねながら、目的を達成することが望まれます。	
総合到達目標	【一般目標】 研究の成果を卒業論文としてまとめるため、研究成果を発表し、論文として完成させる方法を修得する。 【個別行動目標】 ■専門知識と学術的な技能に基づいて、研究論文を書くことができる。(第1回～第15回) ■学問としての「問い」を立てることができ、その答えを学術的に導くことができる。(第1回～第15回) ■社会問題に対して、法学的な観点から分析し、説明することができる。(第1回～第15回) ■社会的な事象について、危機管理の観点から課題を発見することができる。(第1回～第15回) ■社会的な課題に対して、解決を導くための方法について説明することができる。(第1回～第15回)	
成績評価方法	■研究発表(25%)：適用ルーブリック E1・J1・J2・K2・M1 (評価の観点)これまでの研究内容について、研究目的が明確で、適切な研究手法と手順に従って研究成果が得られているかどうかを基準に評価を行います。 (フィードバック方法)発表者に、是正すべき点などについて指摘します。 ■ディスカッションへの参加度(25%)：適用ルーブリック E1・J1・J2・K2 (評価の観点)主体的・積極的にコミットし、協働して問題の解決を図るという姿勢について判定します。 (フィードバック方法)授業の最後にコメントします。 ■研究論文(50%) 適用ルーブリック E1・J1・J2・K1・M1 (評価の観点)これまでの研究の成果が適切にまとめられ、大学生として客観性、合理性を十分具えた、学術的に認めるに値する論文かどうかという基準により評価します。 (フィードバック方法)アップロードされたデータについて、目を通して、問題点を指摘したうえで各自に知らせます。	
履修条件	特になし	
履修上の注意点	報告者が発表するテーマについて、他のメンバーも事前学習を行い、積極的・主体的に課題と取り組み、活発なディスカッションによる有意義な学修成果を獲得できるように努める。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 研究発表(1) ②授業概要 研究内容の報告に基づき、全員によるディスカッションを通じ、研究内容に対する批判的な検証を行います。 受講者は、研究報告とディスカッションにより、研究成果を検証し、相互に卒業論文の最終的な完成を目指すことができるようになる(E1・F1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1)。 ③予習(120分) 卒業論文のための研究内容をまとめ、発表できるように準備する。 ④復習(120分) 議論を踏まえて、研究内容の補正を行う。
	2	①授業テーマ 研究発表(2) ②授業概要 研究内容の報告に基づき、全員によるディスカッションを通じ、研究内容に対する批判的な検証を行います。 受講者は、研究報告とディスカッションにより、研究成果を検証し、相互に卒業論文の最終的な完成を目指すことができるようになる(E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1)。

	③予習（120分） 卒業論文のための研究内容をまとめ、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 議論を踏まえて、研究内容の補正を行う。
3	①授業テーマ 研究発表（3） ②授業概要 研究内容の報告に基づき、全員によるディスカッションを通じ、研究内容に対する批判的な検証を行います。 受講者は、研究報告とディスカッションにより、研究成果を検証し、相互に卒業論文の最終的な完成を目指すことができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 卒業論文のための研究内容をまとめ、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 議論を踏まえて、研究内容の補正を行う。
4	①授業テーマ 研究発表（4） ②授業概要 研究内容の報告に基づき、全員によるディスカッションを通じ、研究内容に対する批判的な検証を行います。 受講者は、研究報告とディスカッションにより、研究成果を検証し、相互に卒業論文の最終的な完成を目指すことができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 卒業論文のための研究内容をまとめ、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 議論を踏まえて、研究内容の補正を行う。
5	①授業テーマ 研究発表（5） ②授業概要 研究内容の報告に基づき、全員によるディスカッションを通じ、研究内容に対する批判的な検証を行います。 受講者は、研究報告とディスカッションにより、研究成果を検証し、相互に卒業論文の最終的な完成を目指すことができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 卒業論文のための研究内容をまとめ、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 議論を踏まえて、研究内容の補正を行う。
6	①授業テーマ 研究発表（6） ②授業概要 研究内容の報告に基づき、全員によるディスカッションを通じ、研究内容に対する批判的な検証を行います。 受講者は、研究報告とディスカッションにより、研究成果を検証し、相互に卒業論文の最終的な完成を目指すことができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 卒業論文のための研究内容をまとめ、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 議論を踏まえて、研究内容の補正を行う。
7	①授業テーマ 研究発表（7） ②授業概要 研究内容の報告に基づき、全員によるディスカッションを通じ、研究内容に対する批判的な検証を行います。 受講者は、研究報告とディスカッションにより、研究成果を検証し、相互に卒業論文の最終的な完成を目指すことができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 卒業論文のための研究内容をまとめ、発表できるように準備する。

	④復習（120分） 議論を踏まえて、研究内容の補正を行う。
8	①授業テーマ 研究発表（8） ②授業概要 研究内容の報告に基づき、全員によるディスカッションを通じ、研究内容に対する批判的な検証を行います。 受講者は、研究報告とディスカッションにより、研究成果を検証し、相互に卒業論文の最終的な完成を目指すことができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 卒業論文のための研究内容をまとめ、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 議論を踏まえて、研究内容の補正を行う。
9	①授業テーマ 研究発表（9） ②授業概要 研究内容の報告に基づき、全員によるディスカッションを通じ、研究内容に対する批判的な検証を行います。 受講者は、研究報告とディスカッションにより、研究成果を検証し、相互に卒業論文の最終的な完成を目指すことができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 卒業論文のための研究内容をまとめ、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 議論を踏まえて、研究内容の補正を行う。
10	①授業テーマ 研究発表（10） ②授業概要 研究内容の報告に基づき、全員によるディスカッションを通じ、研究内容に対する批判的な検証を行います。 受講者は、研究報告とディスカッションにより、研究成果を検証し、相互に卒業論文の最終的な完成を目指すことができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 卒業論文のための研究内容をまとめ、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 議論を踏まえて、研究内容の補正を行う。
11	①授業テーマ 研究論文データを読んで（1） ②授業概要 研究論文のデータをアップロードして、メンバーで共有したうえ、相互に批判的に検討します。 受講者は、相互に研究論文をチェックしながら、各自の論文について批判的・創造的に補正を加え、卒業論文として完成させることができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） アップロードされた研究論文を読み、ディスカッションのため問題点等を整理し、授業で指摘する。 ④復習（120分） ディスカッションを踏まえて、各自論文の見直しを行う。
12	①授業テーマ 研究論文データを読んで（2） ②授業概要 研究論文のデータをアップロードして、メンバーで共有したうえ、相互に批判的に検討します。 受講者は、相互に研究論文をチェックしながら、各自の論文について批判的・創造的に補正を加え、卒業論文として完成させることができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） アップロードされた研究論文を読み、ディスカッションのため問題点等を整理し、授業で指摘する。

	④復習（120分） ディスカッションを踏まえて、各自論文の見直しを行う。
13	①授業テーマ 研究論文データを読んで（3） ②授業概要 研究論文のデータをアップロードして、メンバーで共有したうえ、相互に批判的に検討します。 受講者は、相互に研究論文をチェックしながら、各自の論文について批判的・創造的に補正を加え、卒業論文として完成させることができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） アップロードされた研究論文を読み、ディスカッションのため問題点等を整理し、授業で指摘する。 ④復習（120分） ディスカッションを踏まえて、各自論文の見直しを行う。
14	①授業テーマ 研究論文データを読んで（4） ②授業概要 研究論文のデータをアップロードして、メンバーで共有したうえ、相互に批判的に検討します。 受講者は、相互に研究論文をチェックしながら、各自の論文について批判的・創造的に補正を加え、卒業論文として完成させることができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） アップロードされた研究論文を読み、ディスカッションのため問題点等を整理し、授業で指摘する。 ④復習（120分） ディスカッションを踏まえて、各自論文の見直しを行う。
15	①授業テーマ 研究論文データを読んで（5） ②授業概要 研究論文のデータをアップロードして、メンバーで共有したうえ、相互に批判的に検討します。 受講者は、相互に研究論文をチェックしながら、各自の論文について批判的・創造的に補正を加え、卒業論文として完成させることができるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） アップロードされた研究論文を読み、ディスカッションのため問題点等を整理し、授業で指摘する。 ④復習（120分） ディスカッションを踏まえて、各自論文の見直しを行う。
関連科目	「危機管理基礎演習Ⅰ(RMGT2601)」、「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ(RMGT4601・4602・4603)」
教科書	とくに使用せず。
参考書・参考URL	必要に応じ、随時指示します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に、告知します。 ■オフィスアワー 金曜1限。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%：パブリックセキュリティ40%：グローバルセキュリティ20%：情報セキュリティ20% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学30%：法学70%

